

第8回丹波市自治協議会のあり方懇話会（摘録）

開催日時	令和元年8月28日(水)午後2時00分開会～午後4時10分閉会
開催場所	ハートフルかすが 大会議室
出席者	<p>【座長】 久隆浩委員</p> <p>【職務代理】 足立德行委員</p> <p>【委員】 西垣伸彌委員、清水明委員、藤本修作委員、田中延重委員、 坂根眞一委員、畑田久祐委員、荒木伸雄委員、吉見温美委員 田中義人委員、田村庄一委員、吉積明美委員</p> <p>【事務局】 まちづくり部長、市民活動課、各支所</p>
欠席者	<p>【委員】 大野亮祐委員、足立純子委員、澤村安由里委員、田邊和彦委員、増南文子委員</p>
傍聴者	4名
次第	<p>1 開 会</p> <p>2 座長あいさつ</p> <p>3 会議の公開・非公開の決定について</p> <p>4 報 告 第7回会議摘録等について</p> <p>5 協 議 委員意見交換</p> <p>(1)資料の視点について 丹波市の新しい都市構造のあり方(原案の概要)</p> <p>(2)第6、7回の振り返り</p> <p>○自治会と自治協議会のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会(単位)と自治協議会の連携 ・自治長会と自治協議会について <ul style="list-style-type: none"> ①自治会と自治協議会のあり方(組織、活動) ②自治会と自治協議会のあり方(情報共有・意思疎通) <p>○地域づくり計画のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事遂行型から課題解決型へ(事業の棚卸を行い必要なものは継続) ・人口減少、少子高齢化など地域課題に対応できる地域計画の作成 ・地域経営の戦略的展開(施策連携) ③地域づくり計画 <p>○行政との連携のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ④事業展開の上での連携体制の構築(交付金等) <ul style="list-style-type: none"> ・丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金 ⑤まちづくり指導員、市職員のあり方

	<p>⑥双方向の情報共有と協働体制の構築</p> <p>○行政に影響されない(頼らない)地域経営のあり方</p> <p>⑦自主財源の確立、コミュニティビジネスの展開</p> <p>⑧総動や多様な人材が参画する機能的な運営</p> <p>(3)人材育成のあり方</p> <p>⑨若者や女性の参画を通じた人材育成</p> <p>⑩潜在的な地域の人材の掘り起し、高齢者の活躍の場づくり</p> <p>・丹波市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画</p> <p>【厚生労働省 地域包括ケア「見える化」システム】より</p> <p>丹波市の人口の推移</p> <p>6 第9回懇話会開催日程等</p> <p>令和元年 10月1日(火)午後2時～</p> <p>於:山南住民センター 集会室</p> <p>7 閉 会</p>
<p>資 料</p>	<p>◆配布資料</p> <p>【資料1】第7回会議摘録</p> <p>【資料2】第7回会議概要</p> <p>【資料3】資料の視点について</p> <p>【資料4】丹波市の新しい都市構造のあり方(原案の概要)</p> <p>【資料5】自治会と自治協議会のあり方(組織・活動)</p> <p>【資料6】自治会と自治協議会のあり方(情報共有・意思疎通)</p> <p>【資料7】地域づくり計画のあり方</p> <p>【資料8】事業展開の上での連携体制の構築(交付金等)</p> <p>【資料9】丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金</p> <p>【資料10】まちづくり指導員、市職員のあり方</p> <p>【資料11】双方向の情報共有と協働体制の構築</p> <p>【資料12】自主財源の確立、コミュニティビジネスの展開</p> <p>【資料13】総動や多様な人材が参画する機能的な運営</p> <p>【資料14】若者や女性の参画を通じた人材育成</p> <p>【資料15】潜在的な地域の人材の掘り起し、高齢者の活躍の場づくり</p> <p>【資料16】丹波市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画 進捗状況より</p> <p>◇参考資料</p> <p>病院新聞</p> <p>まちづくり指導員一覧</p>
<p>会議摘録</p>	

発言者	発言の要旨
	1 開 会
座長	2 座長あいさつ 本日は、まちづくり指導員の方々にも参加いただいているので充実した議論をいただきたい。また、情報交換などもしていただければと思っている。
座長	3 会議開・非公の決定について ○公開に決定
事務局	4 報告 【資料1】第7回会議摘録について 【資料2】第7回会議概要について
	5 協議 委員意見交換
座長	まず始めに、前回の引き続きの議論を行い、今回の項目の協議を行うとする。事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料説明) 【資料3】資料の視点について 【資料4】丹波市の新しい都市構造のあり方(原案の概要) 【資料5】自治会と自治協議会のあり方(組織・活動) 【資料6】自治会と自治協議会のあり方(情報共有・意思疎通) 【資料7】地域づくり計画のあり方 【資料8】事業展開の上での連携体制の構築(交付金等) 【資料9】丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金 【資料10】まちづくり指導員、市職員のあり方 【資料11】双方向の情報共有と協働体制の構築 【資料12】自主財源の確立、コミュニティビジネスの展開 【資料13】総動や多様な人材が参画する機能的な運営
座長	第6回第7回と自治会と自治協議会のあり方、地域づくりのあり方、行政との連携のあり方ということで議論させていただいた。議論を踏まえてさらに充実させていきたいと考えている。新しい都市構造のあり方、我々の議論なんかも入れていただいている。31～34 ページ、資料3と資料4でご質問、ご意見を願いたい。かなり先を見越しながらこういう方向性でいこうということが都市構造のあり方に書かれている。これをどうしていくか我々の議論になろうかと思う。そこに向かってどうするか、都市構造のあり方でご質問やご意見をいただきたい。
委員	この都市構造のあり方について、いわゆる中心部から市街地になる周辺部

	<p>という考え方で整理しようということは十分理解できる。周辺部の取り組みの部分で今の行政いわゆる支所の役割と、25 校区の自治協議会が担っている役割というのは十分議論されたと思うが、31 ページの都市の構造化という基本的な考え方の中に 25 校区が位置づけられているが、その上に3つの区域、西部、東部、南部と整理の仕方がされている。この整理の仕方は福祉分野の地域包括の整理の仕方とだぶってくる。地域包括の考え方と 25 校区の考え方はセットにして動かしていかないと住みよい地域になっていかないとまちづくり指導員としても考えているが、その辺のところで基本的な考え方の西部、東部、南部というふうに地域を限定したような形で書かれているので、その辺の摺合せというかどのような議論がなされたのか分かりかねるところがある。まちづくりと関連があると思う。</p>
座長	<p>もう少し補足的に話をさせていただくと、丹波市だけでなく他の地域でも同じことを整理していかなければならないと思ってやっているが、いわゆる地域の単位があって地域の単位ごとに施設の配置や割り振りなんかも連動してくるし、地域包括ケアシステムなんかは地域単位ごとにサービスをどう作っていくなどかなり密接に関係している。地域単位の考え方をしっかりと階層化して共有しておかないと根本からずれてしまうこともある。先ほどのご意見もそういう話も含めてのことだと思う。</p> <p>事務局案では、小学校区があり、その上位階層としていくつかあるわけで、その整理が今後どのようにされていくのか気になるところで、かつては6町があって、それを今度は東部、西部、南部と3つのゾーンの的なものを作っていくということである。元々あった6町の単位で施設が運営されサービスの提供もされてきた。今回、西部、東部、南部という3つのゾーンにくくり直すということの議論と最終の整理をどのように理解したらよいかということかと思う。もし、説明いただけるのであればお願いしたい。</p>
委員	<p>未来都市創造審議会に委員として参加した。既に答申も終わったが、あり方懇話会と比べて委員から意見があまり出なかった。なぜ出ないのかを考えてみると、20 年後の丹波市を考えるということが難しい。どう自分と関わり道筋をつけていったらよいか分からず意見が出にくかったのだと思う。20 年後がどうなっているかイメージしにくいということで意見が出にくかったようだ。</p> <p>コンパクトシティーを目指すのか、コンパクトシティーを目指さず中心部と中心部以外をネットワークで結んでいくのか、または現状のままという3つの案の中で結局、中心部と中心部以外ということになった。柏原地域、氷上地域、春日地域を中心部として、青垣地域、市島地域、山南地域を周辺部とするというところである。</p> <p>終わってから知り合いにパブリックコメントを出してほしいと頼んだがあまり出なかったようだ。具体的にこの会議との関連でいうと34 ページの「地域自治の進展のあり方」ここは読んでいただいても道筋がつけられると思う。20 年後を考えたときに、例えば、ネットワークというか公共交通機関で結ぶというような、本当に 20 年後そうなっているのかというのは意見でも出た。もう自動運転</p>

	<p>になっているのではないか。自動運転になっている時代の20年後を考えると、「商業施設を集積化して」と言っても商業施設が本当に20年後もそこにあるのかどうかも分からないということでもありなかなか難しい。そういうことで意見がなかなか出にくかったのではないかと思う。ウーバーを先行的に取り入れるというような意見とか、新病院ができて公共交通のデマンドタクシーではなく、病院そのものがバスを持つという意見も出た。</p> <p>学校の統合についても山南地域の中学校の統合もあるが、小学校の統合も考えてもよいのではないか。考えた上でのまちづくりの方向性もイメージすべきではないかなど、会議が終わった後も色々な方と議論をした。</p> <p>座長 未来の話をするとき、どうしても未来だけを見てしまうが、逆に50年前に丹波はどうだったのかと考えると、人口はこれだけなかったし、市街地もそれだけ広がっていなかったかもしれない。それにも関わらず皆何とかやってきたわけで、そう考えたときに昔のことを思い起こすと、ひょっとすると人口が減ってくるなかで未来の姿が見えてくることはないかと思う。おそらく50年前はこれほど役所に頼ることなく地域の問題は地域で色々やってこられたところが多かった。それが、50年の間に自分たちでやれる部分より、行政がサービスでやる部分がどんどん増えてきたのではないか。50年前、100年前、150年前は地域でできることは地域で責任をもってやってきた。地域でやってきたことをもう一度思い起こして、地域でやれることは地域でやるということになってくると、これほど行政サービスがたくさん必要なかどうか。昔を思い起こしてみると未来へのヒントがあるのではないかと思う。もう一度先ほどの話に戻して言うと6町のときに様々な公共施設をそれぞれの町で作ってきた。それで合併すると20年後、30年後、50年後、これだけの施設が必要かどうかを詰めていくと、もう少し統廃合をとっていかざるを得ないのではないか。どの施設を残してどこを廃止していくのか。ひとつの手がかりが先ほどのゾーニングで地域単位となっていかにざるを得ないのではないか。その辺りをうまく連動して検討していけばよいと思うし、先ほどの小中学校の話があったが昔はそんなに多くの小中学校はなかったので、どのあたりまで戻していけるのかとか議論してくると決して未来を未来だけで考えることではなくて少なくとも過去も振り返ることで色々見えてくると思う。</p> <p>市役所のどなたか考えを聞かせていただきたいのは、先ほど公共施設の再編という話があったときに、今回、西部、東部、南部という分け方になった訳だが、これをおそらくひとつの手がかりとして統廃合がなされていくと思うがこの新たな3ゾーンを作られた思い、思惑、これをどう活用し、どのように展開しようと考えられているのか、現状の段階であれば教えていただきたいし、この構造のあり方のビジョンなどを受けて、今後、考えていくというのであればそういうことだという説明でもかまわない。</p> <p>事務局 先ほど未来都市創造審議会の様子を委員からお話していただいた。都市機能の配置のあり方の部分については、行政機能を含めて、また民間機能も含めて丹波市を1つの市として考えたときの都市機能はこういう方向になって</p>
--	---

座長	<p>いくだろうということだ。20年後の姿なので今すぐということではないがそういう方向を目指していくということがまとめられたと思っている。平成16年の合併までは6町がそれぞれ中心部をもってまちづくりを展開してきた。それが合併して1つの市になったときに6つの核をそれぞれ維持していくことは非常に難しいだろうということで、1つの市としての都市構造を持っていくというあり方の絵を描いたものがこの位置付けだろうと思っている。すべての公共施設の寿命もあるので、年限を待って集約をしていくということは考えているということだ。</p> <p>先ほどの東部、西部、南部の生活圏のゾーニングについては、行政機能だけでなく生活の営みという部分での便宜を図っていくというイメージが強いのではないかと思っている。そういうことであると先ほどの地域包括も行政機能というより支え合いのエリアという一步違う視点もでてくるので、その辺行政機能と生活のエリアというところを今後どう考えてくかというところの整合性を図っていくということになるかと思う。25自治協議会の中の中心部といわれる自治協議会でも周辺部と同じように高齢化が進んでいる地域も当然あるかと思うし、逆に中心部でないエリアであっても自治会が強いと言うか自治機能が維持継続できている地域もあるのでそういうことも踏まえながら20年後を見据えた動きをしていかなければいけないということが未来都市創造審議会の中でまとめられた。具体には、このあり方懇話会の中でご協議いただけたらありがたいと思っている。</p> <p>少し違う観点で申し上げると、6町のままではこれからなかなか立ちいかないということで合併して丹波市という1つの単位になった。それで結果的に効率的に動かしていこうということで合併した訳なので、これからはずっと6町という昔の単位にこだわってしまうとせっかく合併した意義が半減してしまう。今後、丹波市全体の中でどういうゾーニングをしながらお互いに役割分担に寄与していくかということについて今回1つの方向性をみたのかなと思うし、その辺りも見ながら自治協議会の役割のようなことも考えていただけるのではないか。</p> <p>私の大学のある東大阪市も昭和40年代に3市が合併した。スタート時点では3つの市役所をそのまま使いながらやってきた。20年経ってようやく今の新庁舎ができた。それまでどこに市庁舎を置くか、どのように中心部を決めていくか3市の壁が非常に強くてなかなか出来なかった。20年経ってようやく東大阪市という単位で行政も住民も動けるようになったということで、今までの単位からの脱出、なかなか新しいステップに行きづらいと思うので、ある意味1つの区切りを示してくれたのではないかと思っている。</p> <p>さらに中心・周辺という話でいくと、平成の大合併のときに町村でも合併しなかったところがある。その中、岡山県の新庄村に視察に行った。新庄村は小さい村なので村だけで回していくのはかなり苦しい。なぜ合併を選ばなかったのかということで話を聞いたところ、中心・周辺という話が出た。新庄村は、明治の大合併、昭和の大合併と2つの大合併を経験している。合併すると中心・周辺という考え方になってしまって周辺の扱いになってしまう。ひよっとすると今回合併を選ぶと新庄村は周辺の扱いになってしまうのではない</p>
----	--

委員	<p>か。苦しいながらも自分たちの単位を守り続けていけばよいのか、あるいは周りの市町と合併して周辺という取扱いになっていくのかという選択をした場合に、今回は合併しなかったという話をされた。しかし、財政も非常に厳しいので、今も何とか村民ぐるみでがんばっていかうという取り組みを続けている。</p> <p>どうしても合併という観点からすると中心・周辺という考え方になっていかざるを得ない。しかし、先に部長からあったように決して中心部が便利で周辺部が不便という考え方ではなくて、どこに暮らしていても同じように暮らし続けられるようなしくみをネットワークや連携で確保していくのかという観点が重要だし、こちらの話に引き付けて言うと、だからこそ一番身近な小学校区単位でしっかり地域のことは地域で考え生活も成り立たせられるような自助単位で考えていかうというのがこの自治協議会のポイントかと思う。そういう意味でまず1番身近な小学校区単位、自治協議会の役割をここでしっかり位置づけられるということが先ほど部長の話を受けて思うところだ。先ほどの質問にもあったように、そのための地域拠点という形でしっかり作っていかないといけないという話であったので、我々も提言をさせていただいているところだ。まずは1番身近な小学校区単位で自治協議会中心にしっかり動かしていけるような拠点を市にも支援してもらいながら作っていくという話で我々の議論ともこのビジョンは重なってくるのかと思う。</p> <p>先ほどから話を聞いていて、都市構造について最初に聞いた時はこれはコンパクトシティを目指していると思った。これは絶対反対だという思いだ。なぜそう思ったかというが高知県に大豊町という町がある。この町は早い段階で高齢化率が50%を超えており注目されていた。そこへ視察に行った。80程の集落があるが、視察に行ったときはその内の30程の集落が無人になっていた。町長に将来まちづくりをどうするかと聞いたところコンパクトシティしかないと言われた。大豊町は昭和の合併のときは人口が2万2千人だったが、視察に行ったときは5千人まで減っていた。最近ホームページで調べると3千人になっていた。まさに大豊町の生きる道はコンパクトシティしかなかった。それは分かるが、丹波市はそうならないように考えてほしいという思いがある。大路地区はいわゆる周辺地域だが、丹波市になってから人口の推移をみると人口の減少率が合併した途端一気に減りはじめた感じがする。高齢化率が40%を超えたのはつい最近だが、そういう状況でこれどうしたらよいのかと見守りながら大路地区で議論している。一番ありがたいと思っているのは春日町時代に下三井庄に総合運動公園を作ってもらったことだ。その時はそれほど思わなかったが、今、地域のまちづくりを考えると総合運動公園があるおかげで多くの方々がこの大路地区を訪れていただける。これはすごい宝物だと思っている。だから施設の統合ということを考えるときはそういったことも念頭において考えていただきたいと思うことが1つだ。それからもう1つは先ほどの意見の中にもあったが、ビジョンの説明会があったときに、最初に私が「絵に描いた餅やないですか」と申し上げると市長はショックだったようだが、決して悪い意味で言ったのではなくて、そうなるのだったら誰がこの役割を担っていくのだと、方向を出した以上市民もこういう形で頑張ってもらわないとそうならな</p>
----	--

事務局	<p>いのだという言葉がほしかった。我々自治協議会で色々活動しているのでこういうことも考えないといけない時代なのでそれをどう受け止めていくか。中心地域とか周辺地域とかいうことよりも地域でどういう努力してビジョンの方向へもっていくかということがものすごく大事なので、これから都市構造の関係については実際に進めていく段階で市と協議し我々自治協議会も手をつないで進めてくことが一層大事になると思っている。</p> <p>先ほどの補足になるが、委員もよく御存じの通り合併当初は多極ネットワーク型都市構造といって6つの都市を結んでいって1つの地域にしようという都市構造を目指していた。このたび一定の中心核をもって、中心核だけでなくいわゆるコンパクトシティだけでなく周辺の都市機能もそれぞれ維持していこうという2段階の都市構造の形を表したのであると思う。6つの核を中心にしていくことも大切だが、それではなかなか立ちいかなくなるというイメージの中でこういう都市構造を目指しているところだ。それらを生活の営みと重ね合わせたときに、それぞれ地域で営みがある訳で例えば公共交通で結んでいくとか、利便性の確保についても行政としてもしていかなければならないということを未来都市創造審議会の中で議論されたところである。現在、総合計画審議会が開催されているので具体的な意見は反映されていくと考えている。</p>
座長	<p>先ほどの委員のお話を受けて、もう一度タッグ、ネットワーク、コンパクトシティなどうまく組み合わせていただければと思う。</p> <p>今、全国的に交流人口という言い方をするが、これは昭和 50 年代に兵庫県が初めて言い出した。私も関わらせていただいたが、但馬地域の整備を考えていく中で、但馬地域はあれだけ広い面積を持ちながら人口は 10 数万人だ。この中にどれだけの様々な施設を整備できるかということ考えたときに編み出したのが交流人口だ。一番典型なのは、旧日高町の神鍋高原に但馬ドームという全天候型の屋内体育館を造った。但馬地域の人口規模に比べて立派な施設を造ったが神鍋高原というのは、夏は関西の大学のクラブ合宿などにも利用されるので、そういう方々にも使ってもらえるというので人口を増やしてカウントすることで整備をしてきた。その時使ったのが交流人口という言葉だ。先ほどの委員の話のように皆が使う施設をうまく分散・配置することによってネットワークが出来上がっていくわけで、そういう視点もこれからは持ち続けていただきたいという意向かと思う。そうすると、それぞれの自治協議会でうちはこういう施設を誘致したいとか施設を残してほしいというのをきちんと議論して、それをまちづくり計画に盛り込んでいって、自治協議会の全体のところ調整しながらうまく分散・配置を考えていく。こういう取り組みがこれからは進められていけばよいと思うし、そういう意味ではまちづくり計画を地域の総意としてしっかり作っていただくことも必要になっていくと思う。</p> <p>先ほど委員から 20 年後というのはちょっと難しいという話があったが、あり方懇話会の中でも何度か申し上げたが、今は、今の動き方でいけるかもしれないが地域の活動も 20 年後を考えたときに、人の数も減ってくるだろうし高齢化</p>

	<p>も進んでいく中で新たな地域ビジョンの担い方を考えていくということで自治協議会の検討もさせていただいたのでそういう観点でも考えていただければと思う。</p> <p>それではもう1つ、この話題だが6回、7回の振り返りで35ページから赤字で追加がされた。この書きぶりとか、それを受けて今後のための追加の話とか出していただくとありがたい。今日は、まちづくり指導員も来ていただいております、資料の中にもまちづくり指導員のあり方も提言として抽出させていただいているので、現場の状況も含めてこういう観点も盛り込んでいただきたいというのがあれば意見を出していただきたい。</p>
委員	<p>45 ページに「行政に影響されない行政経営のあり方」の赤字の下の所、「今までの仕組みで少し増額したり、やり方を変えて一定の収入とする」とあるが、何を「増額したり」すればよいのか、もう少し具体的に書いていただくとありがたい。</p>
座長	<p>議論もまとめてここで抽出されているので、議論の内容も比較的表すような形で分かりやすくという意見だ。</p> <p>追加のところはこれでよいか。今日はまちづくり指導員も来ていただいているのでまちづくり指導員と地域との関係性とか日常困っていることとか、こんなところが良いとか具体的な話もいただきたい。どんな話でも結構だ。</p>
委員	<p>43 ページに「市職員であることでできる地域づくり支援者としての活動を担う」とあるが、支援者というのは実際に事務所で事務員という感じの活用で、何をどう支援してもらっているのか分からないまま年月が過ぎてしまっている状態である。色々とイベントの参加ということも聞いたりするが、ただ全体会のときに顔出しして聞いてもらう程度で終わっている。自治協議会に対して支援者はどういう目的で設置されているのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>当初、市職員の支援者は、まちづくり計画を策定する際に色々な情報提供であるとか取り組みの方法と一緒に考えるという、市職員であればこそできる役割が始まりだった。それが現在、場所によっては委員が言われるように一般住民としての参加という形態になってしまっている場合もある。本来なら市職員として出来ることをする。これまでの会議にもありましたように、全体会の中でもそれなりの知識や裁量を持つ職員が入り、一緒に考え参画して、地域に関わっていけるようにしなければならぬということについては、課題としてとらえ整理していきたいと思っている。</p>
座長	<p>支援者に関しては本来のあり方を検討いただくということになるかと思う。私は複数の市に関わっているが、地域担当の役割というのはうまくいっているところは少ない。地域の方々もどう接していけばよいのかというところがうまく仕分けができていないというところもある。せっかく来ているのに何をお願いしたらよいのか、どのようなことを聞けばよいのか地域も困っておられる。これは市</p>

	<p>内部の問題になると思うが、例えば、定例会を月1回そこに支援者も入ってもらって市側の情報を渡し、地域の会合で出た話を効率的に市へ持ち帰ることができる。そのためにも地域の会合で様々な方々が集まって意見交換する場所を集約し、そこに効率的・効果的に支援者が入ることによって市と地域の情報交換のパイプ役になってもらえると思う。さらに、これはあちこちで言っているがなかなか実現できないことだが、例えば地域で前の夜に会合があった。この話をすぐ市に持って帰りたいと思ったときに、すぐに誰かに持って帰れるか、次の朝に担当職員にとうまく流れていけばよいが「そんなややこしいこと聞いてくるなよ」、という話になると地域と市役所職員の間で挟まれてしまって支援が難しい。そこを解消する方法として、私がずっと提案しているのは前日の会合で、何々地域でこういう話が出たというのを庁内LANを使ってそこに書き込んでおけば「これはうちの問題だ」、と担当部署が引き取ってくれるようなデータベースシステムなんかを作っただけだと連携がよりやりやすくなると思っていて、せっかくネットが普及した時代なのでそういう情報システムを構築すると人と人がつながっていても、データベースを通じて地域の課題や地域から出てきた話を庁舎内で共有することができるのではないかと考えている。庁内情報システムで地域の情報を即座に市役所内で共有できるシステムを考えてもらえれば、支援者の役割ももっと整理ができるのではないかと期待している。</p> <p>他いかがか。よろしいか。次の話題にいかせていただきまた振り返りを含めて話をいただければと思う。</p> <p>今日、新たに議論いただきたいということで人材育成のあり方について、資料説明をお願いします。</p> <p>(資料説明)</p> <p>【資料14】若者や女性の参画を通じた人材育成 【資料15】潜在的な地域の人材の掘り起し、高齢者の活躍の場づくり 【資料16】丹波市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画進捗状況</p>
事務局	
座長	<p>色々な人材の方々がその地域で活躍できるような雰囲気、あるいは機会づくりそういうものができたらという話なので、「うちはこのようにうまくいっている事例がある」とか、逆に「このように苦労している」というような話、あるいは「将来このようになったらよい」、という話など様々な話をいただきたいと思うがいかがか。</p>
委員	<p>私は、前山自治振興会の役員をしている。先ほどの人材育成のところでも女性の参画とか若者の参画という話があった。当自治振興会の役員会は13の自治会長と自治振興会長、推進員含めて17名程度で毎月の定例会を実施している。団体の若者のリーダー的な方や女性で活動されている方は自治会長になられていないのでそういう場に顔を出して会議をするような機会がない。先日も役員会で話をしたが、若い方は現役のサラリーマンなので、私が40歳50歳の年代なら60歳定年になったら退職して地域で活動できる立場で</p>

	<p>あったが、今は 65 歳定年で、まだ働く意欲があったら 68 歳くらいまでは働き続けられるという情勢になりつつあると聞いている。退職して役員を受けると 70 歳前になってしまうがそれは避けては通れない話だ。そういう若い方や女性が日頃携わりたいと思っておられたら、何らかの機会や制度を作らなければという話をしていた。まだ具体的には決まっていないが場づくりは必要であると認識し、話していた。それからもう1点は女性の参画を通じた人材育成について、自治振興会の活動の中の陣容を見るとほとんどが女性だ。例えば、コミュニティセンターの中で活動している女性 20 数名のグループがある。その女性たちが社会福祉協議会と連動して今年度はどこへどういうボランティアに行こうとかか計画立案から全てをされて、年度の計画はこうなっているという情報を私たちにも出してくれる。自治会長に女性はなされていないが実際の活動を見ると自分たちで計画立案し、地域の方にこういうイベントをしているので来てくださいと周知もしている。ある意味では、そういう参画をしているような状態になるのかなという認識でいる。そうは言いつつも情報収集した段階でどうしていくかということは、今後、取り組んでいかざるを得ないという話をしている。</p>
座長	<p>役員会と別途、何かそういう常に動いている方、動きたいという方々を含めた情報交換の場をうまく取り入れていければという話かと思う。その辺のところもう既に取り組んでいるとか、試みていますという地域はあるか。委員会以外で、様々な方が集まって意見交換とか情報収集しているようなことであるがいかかか。</p>
委員	<p>何年か前に健康という形で考えた場合に何かやりたいことはというアンケートを取り、女性の方からヨガがしたいということだったので講師を呼んでヨガ教室を2か月間実施した。教室終了後もサークルとしてそのまま継続していきたいということで、4年か5年になり月1回活動をしている。他にもグループが色々立ち上がり、養蜂クラブなども立ち上がっている。今回、氷上地域のまちづくり指導員から提案があり、蕎麦を打たれている地区があり、そこが勉強会を開いてくれたので参加した。その結果、愛宕祭で蕎麦を提供する活動をしたが大好評で 100 食があつという間に売れてしまった。そういう活動が地域の活力になって、色々なグループが出来てくると思った。他の地域でされていることを見に行っても良いヒントになるのかと今回勉強させてもらった。</p>
座長	<p>そういう活動がきちんと自治協議会の中に位置付けられているということだ。おそらく、他の地域でも様々な面で活躍されている方がいると思うが、そこと自治協議会の関係をしっかりとって、自治協議会のもとに置いていただけるような仕掛けができればよい。逆に、自治会や自治協議会の活動に距離を置いている方々の中に自分がそこに顔を出してしまったがゆえに、役員を押し付けられるのが嫌で少し距離を置きたいなという方もいると推測するが、顔を見せて活動を自治協議会の中に位置付けていくことと、役員をお願いすることに線引きをきちんとするとともに自治協議会活動として展開してくれる方も増</p>

委員	<p>えてくるのではないかと期待する。</p> <p>午前中に地域福祉計画推進の評価ということで委員会があった。その中で、ボランティアグループに男性の参加がないという話をされた。自治協議会の中でも女性参加の話が出てきた。一方で、社会福祉協議会とかが取りまとめられているボランティア団体では男性の参加がないという話だ。だからこういうところ自治協議会のグループ、組織的な枠組みをどういうふうにしていくのか。そして、どう活用していくのか。お互いに活動はしているのだというところ、必要な部分をどう取り入れていくのかというところ辺りが鍵なのかなと確認しながら聞かせてもらった。</p>
座長	<p>男性というのはどちらかという組織の中で肩書きとか役割がしっかり決まった中で動くが、ボランティア活動などのほわっとしている活動はなかなか関わりにくいということではないかと思う。逆に女性はしっかりして何やかんやと言われると嫌でゆるやかに動きたい。そのギャップが先ほどの委員の男性と女性の話になってきているのではないかと思う。そういう意味でどちらのタイプもうまく自治協議会の活動を担えるような、しっかりと動くところと、ゆるやかに担えるところをうまく組み合わせることによってこの問題がうまくつながっていくのではないかと期待する。</p>
委員	<p>近所の同年代の男性や女性の話を知っていると、自治協議会は敷居が高い所だという印象があるようだ。全てではないが、この敷居の高さをどうして下げていったらよいかという話で、先ほどの福祉分野の話とか自分たちのボランティアとかそれぞれ色々やっていることは別々にある。それでいきなり入口を福祉でやりますと言って、うまく人が集まって、それでたまたま女性ばかりになってしまうということもある。どうしても組織でやると入口をいっぱい作りたくなる。そこに集まってくれる方はそれに特化した話で内容によっては女性が多くなってしまったり、男性が多くなってしまったりという場合があるが、敷居の低い居心地のよい所というのが必ず入口として要るのではないかと思う。役員が大変だという話になるとまた話をさせていただくが、やはり自治協議会という何かさせられるというイメージと、命令とか指示とかそういうものでやっていくというイメージもある。全てそうではないと思うが、そういうところを取り払う何かそういう場が要るのだろう。そこには男性であったり女性であったりと、市内でも自主的にされているグループというのはそれぞれ目的がはっきりと分かっているグループもあるし、何となく集まってそこでグループができていく場合もあるので、その入り口作りということが自治協議会の今の課題の分野の中では大事ではないかなと思う。</p>
座長	<p>様々な方が一步を踏み出せるような仕掛けを作っていったらどうかという提言だと思うが、そのためには情報がどのように伝えられているかというところがあると思う。今日はどちらかという若い世代という話もあるので、今、フェイスブックやツイッター、インスタグラムといったSNSで自治協議会の情報発信を</p>

職務代理	<p>されているところはあるだろうか。</p> <p>私の自治振興会では、フェイスブックでグループを作り、ほとんどはイベントに関してだが、こんな活動をするとか、こんな行事をやるというのは地域コミュニティ活動推進員が情報を発信している。ホームページとは別に自治振興会のフェイスブックグループを作っている。</p>
座長	<p>他の地域でこういう新しい情報発信をやっているというところがあればお願いしたい。</p>
委員	<p>私どもの地域では自治協議会だけでなく、「観光まちづくりの会」、「まちづくり柏原」という団体があり、その団体と一緒にフェイスブックを使ってイベントなどの情報発信をしている。色々と反響があるので、そういうものを扱える専門の方にいてもらって情報発信をしている。</p>
委員	<p>基本的に自治振興会の会議とか総会も含めての案内などは、今までは全部郵送でやっていた。私が会長になってからは役員会の招集は文書で送るが、ショートメールでも送るようにしている。ショートメールなら字数に制限はあるが確実に伝わるということでショートメールを使っている。私は色々な会議に出席しているが、例えば、山南地域の中学校統合問題などの皆が関心のあるような会議については、こういう議論がされていると小川通信に載せたり、メールでデータを送れる委員には一方的に送ったり、地域づくりセンターに資料を置いていつでも見られるようにしている。フェイスブックでグループを作ろうと思ったがなかなか揃わなかった。最近聞いたがフェイスブックはおじさんお婆さんのSNSだと言われているらしい。同時にラインもしているが、ラインでつながるようになると若い人たちが入ってきてくれるような感じがするのでラインでつながろうと今は積極的にやっている。</p>
座長	<p>若い方々に情報発信をする役割を持ってもらえると、当然、活躍してくれると思うので、会合に出なくても日中仕事をしていても自分の隙間時間に情報を取れるような役割を担っていただけるとありがたい。</p> <p>他に住民への情報発信でよい取り組みをされているところがあればお願いしたい。</p>
委員	<p>フェイスブックの話が出たが、今の使い方では少しもったいないと思う。グループの連絡だけとか、掲示板のような感じでここを見てくださいというのは、それも一つの使い方だが、役員の中の1人が100人の友だちを持っていたら100人に同じ情報を流せる。多くの人に情報を流せるという利点があるし、ぜひ、そういう使い方もやっていただけたらと思う。</p>
座長	<p>大阪市鶴見区の榎本地域活動協議会が、立ち上げのときからうまくフェイスブックを使っている。広報の中島さんという女性が中心に動かされた。中島さん</p>

は元々PTAの役員で、子どもが小さいとき地域の方に色々お世話になったという経験をされた。しかし、子どもが大きくなると地域と少し距離が開いたが現役世代なのでなかなか地域活動を担うという時間もない。何か別の形で地域にお返しができないかと思っていたところ、地域協議会長がフェイスブックをやる人はいないかと言って、中島さんに白羽の矢が立った。「中島さん得意やないか任せるわ」と言われ引き受けられた。そういう意味では現役世代でも自分の都合のよい時間に情報を流せるという役割をもらったので活躍の場が開かれた。その中島さんを中心に色々な試みをされている。広報も任されており紙媒体で従来の広報も作っているが、フェイスブックを使うことによっていちいち取材に行かなくて済むということだ。フェイスブックは、写真付きで色々な方が投稿するので、今日はこの団体がどこでどんな行事をやったという情報が集まる。写真も付いており、それをうまく編集することで紙媒体の広報紙ができる。そういうフェイスブック情報を使いながら従来型のものにもつなげている。先ほど委員が言われたようにフェイスブックというのは、一方通行ではなくて、そういう場を設けておくと色々な方が投稿を投げ込めるので双方向の情報交換ができる。ですから、自治協議会から情報を流すだけではなくて、地域で様々な方が色々なことで動いているので、その動きもそこに載せると逆に役員が知らないところで、おもしろい活動をやっているなというところが見えてくるので、そういう双方向の道具をうまく使っていただくとありがたいな思っている。さらに榎本地区は、ホームページでも非常におもしろい試みをやっている。プロにホームページを作ってもらうのではなくて、ホームページ作成のプロに来てもらって作り方を講習してもらった。その中で作り手になった人が今作っている。見てもらったら分かるが、小窓のようなところがいっぱいあって、その上に団体の名前が付いている。ツイッターで流せばそこに全部情報が上がるという仕組みになっている。団体の枠だけ用意していてその情報を団体の誰かに書いてもらうという仕組みだ。あるいは、自治協議会の活動をしてほしい場合に、どれでもよいからまずはお客さんとして関わってほしいという呼びかけをしている。年中行事の表があって何月にこんなことやっているということが分かる。前の情報にもリンクが貼られていて、昨年こんなことをやっていたということも見られるようになっている。興味があれば今年もやるので、まずは参加していただけないかというような非常に敷居の低い入り方のできる方法、呼びかけ方をしている。「どこかにあなたの興味があるでしょう。まず、その興味のあるところから地域にデビューしませんか」というような呼びかけ方をホームページを通じてやっており、うまく新しい方を引き寄せている。参考にしていただければと思う。どうして皆さんに情報の話をしているかというと、人材の意味から、人と自治協議会との接点をどうやって設けるかという観点でいうと情報発信だと、もう各地域に人材はいると思う。ここでも人材育成と書いているが人材はいる。育成しなくてもいる。その方にうまく自治協議会の活動に関わってもらえるかどうかということだと思うので、その1つの接点としての情報のツールが重要だと思う。また、もう1つは何月何日にこれこれをやりますと行事の告知はよくされる。しかし、どういう行事かというのは告知のチラシだけではよく分からない。そうすると、かつてやっていたものの報告がある。こういう方に

委員	<p>集まってもらい、こういうことをやったという報告が後でもちゃんと見られるようになっていくのが重要で、そのためには記録が後でも取れるようにしていただくことによって最初に参加するハードルを下げるができるようになることを期待している。そういう情報の投げかけ合いをやっているとことがあればお聞きしたい。</p> <p>前にも申し上げたかもしれないが、各単位自治会に男女共同参画の役員があるが、声を聞いたところ「何をしてもよいのか分からない」「名前だけだ」と言われた。そこで、柏原自治協議会は、今回、初めて男女共同参画の方々のグループを作り推進会議を立ち上げた。グループの中から座長を選ぶのではなく、リーダー格の方を先に決めてその方にリーダーになっていただき、参画してくれる方々に悩みやどういうことをしたらよいのかということと相談していただく会議である。ほとんどが女性で男性もいるが、女性にはこういう場に出て来て会議の雰囲気を学んでもらったり、自治会へ持ち帰って、自治会の方でもこういうことであれば自分でも役員ができるのではないかとという育成の仕方もしていけたらと思っている。10月には市民プラザに男女共同参画の部署ができるということなので、市の方からもどういう観点でどういうことをしてもらったらよいのかということも、男女共同参画の人たちに指導してほしいと思っている。そういったことも踏まえて、自治協議会にも参画してもらえたらなと立ち上げた次第だ。</p>
座長	<p>おそらく地域活動の中で男女共同参画がどのようになっているかを一緒に考えていただくことも、男女協働参画の取り組みとしては非常に重要なところではないかなと思う。宝塚の話を何度かさせていただいて、宝塚のまちづくり協議会のガイドラインを作っているときに、まちづくり協議会の女性会長の割合はどうなっているのだろうかという話があり、市役所のこういう会議もそうだが何割以上かは女性が入っていないといけないというルールがある。まちづくり協議会でもそういうルールを作ったらどうだという話が出たが、それは時期尚早かと今回そこまではいかなかったが、そういう意味で役員構成の中で男女のバランスをどうするかとか今後考えていただくことが男女共参画社会の1つとしてあるのかなと思っている。そういうこともあって、今日は女性の参画をどう進めるかということもテーマにしているところだ。しばらく情報に話を振ったが、他に何か様々な人材に関わっていただけるような取り組み等あればお願いしたい。</p>
委員	<p>気になっている部分で、第3回の時に各自治協議会の組織図を見せてもらった。その中で組織図を見たらそういう人たちが参画できるような組織じゃない組織もある。自治会長しか組織の中に役員としておられないというような組織が25自治協議会の中にあり、自治協議会としての活動という形だけでなく地区全体としての活動としては、先ほど説明があったように女性も色々な形で活動しているが、校区を代表する自治協議会という形で整理したときに自治協議会の中にそういう活動をされている方々は入っていない組織がいくつか</p>

	<p>ある。それで、今している議論がかみ合わない自治協議会もある。まずはその組織を変化させないと本来の目指すべき自治協議会として校区全体の人たちがそこに結集し、その地域の地域づくりのための組織なのだという部分、そのものが全体として整備が出来ていない部分というのがある。我々もそうだが、「こういう人ならこんなこともやってくる」というような話を地域づくりの中で持ち出すが、「いやいや、その人は役員ではない」と言われる。活動を担っている部分もいくらかあると思うが、会長や役員は、今後は何とかそういう形でやられたらよいと思うが、今の組織の中での役員の選出基準がそういうことになっているので女性も含めて役員の中に入りきれないような組織がこの中にいくつかあるのではないかという気がしている。</p>
委員	<p>先程の意見では、少し言葉たらずだった。自治協議会のメンバーで常任理事会は、13 集落の自治会長と会長・副会長だが、年に数回は消防団の代表者とかPTA代表者や学識経験者ということで老人クラブを経験された方とかいう組織委員が6人入って会議をする。通常の定例会には入っていないが、何かあればそういう委員にも来ていただいて意見を聞いている。私が言ったのは、若い方と現役で働いている方の情報収集は出来ていない部分があるので、そこを何とかしようという話である。今の話の中で、高齢者のつどいの場ということで交流サロンとか100歳体操、男性料理教室という交流の場で65歳以上の方でお世話をしている。参加者も高齢者が多いということで高齢者の働ける場所、集う場所ということで努めている。私の地区は東西に長く、拠点ほぼ真ん中にあるため、そこへのアクセスというのがマイカーで来られる方はよいが、行きたいという希望がありながらマイカーの運転が出来ない弱者の方もいるので何とか拠点の方へ出向いて来られるようなしくみが出来ないかと相談をしている。丹波市公共交通のデマンドタクシーの利用に対して補助をして来てもらうような方法もあるのかと検討している。</p>
座長	<p>先ほど組織との関わりの話があった。いわゆる意思決定をして組織を運営する立場の集まりと、一方で活動を担う立場とここを役割分担、うまく連携していけばよいと思う。それが今までの自治会も自治協議会もだが、活動の担い手と運営をする代表がほぼイコールになっている。だから活動が気になるということで組織体系ができなかったということだ。運営を担う部分と活動を担う部門をうまく整理をしていただくと、活動をしなくてもよいかと、うまく門戸が広がっていくのではないかと思うし、先ほど委員の言われた男性と女性の違いも、吸収できるのではないかと思う。男性はどちらかというとマネジメントが得意でしっかりと物ごとを動かしたい。女性は楽しく皆で活動したいという活動の部分で活躍していただいたらよい。そこでうまく連携しながらやっていただくと先ほどの問題の一定性ができるのではないかと思う。それと関わっていただく方々の関わり方で少し組織を整理し見直すことによって見えてくるものがあるのではないかと期待する。</p> <p>もう少し情報提供をさせていただくと、泉大津市でも昨年からまちづくり協議会を立ち上げているが、第1号で立ち上がったのが旭小学校区である。</p>

	<p>色々な団体を中心として統合する形、福祉部会とか環境部会とか子育て部会とか色々な部会を作っていくけれども、「全部埋め尽くさず隙間を作っておかないとだめだ」という話を会長がされた。全て埋めてしまうと後から「私は、これをやりたい」という方が出られなくなるだろうということで、一定の部会方式はとるのだけれども、「私こんなことやってみたい」という人が現れたらその人をリーダーにして新しい部会を増やしていけるような余地を残しながら動かしたいと話された。実際にここに来ていただいた三田市の高平は「里カフェ部会」を作られているが、里カフェ部会は、里カフェを運営するだけで部会を1つ作っておられるので、そんな活動の担い手をまちづくり協議会の重要な構成員として位置付けられるような組織体系を先ほどご提案いただいたように持っていたくのも1つかなと思うし、さらに言えば、三田市の別の地域でゆりのき台地域活動協議会は、2月くらいに次年度の活動募集をしている。資料 39 ページの丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金は、申請書を書いてもらい審査を受けて上限 30 万円いただけるという事業だが、これを自治協議会レベルでされている。「来年度、私のグループはこういうことをやってみたい」と提案されると、役員が審査をしてこれは地域のためになるということであれば、その方たちに補助金を渡して1年間活動を担ってもらおうという仕組みをとっている。これを自治協議会にやってもらって自治協議会の活動に位置付けるという1つの公募方式という位置付けができると思う。毎年なので、まず1年間やってみるグループにお金をお渡し、できるということになればよい。そんな活動もやってみていただければ参考にできると思う。他にいかがか。</p>
委員	<p>私のところは、愛宕祭りという4万人規模の祭りが終わったところだが、5月から述べ4か月間かかり商工青年部、ロイヤルクラブ、そして私たちが一緒になってやった。資料3に書いてあるが私は自治会の会長からスライドして自治振興会長になったということで4か月間夏祭りの準備にかかった。やはり若い人の力が当然入ってくるし当てにする。私自身の考えでは非常に良いなと感じた。仕事はしんどいが、若い人と我々年配者が同じように1つの目標に向かってやっていくということは非常に良かったなと思った。これが4か月間だけでなくて、夏祭りだけが目的ではなく一年を通じてやっていけるような形はないものかと思っている。それから、先ほど座長が三田市の例を出されたが、40 歳代の女性がリーダーシップをとっておられる。会議の冒頭で言われたまちづくりビジョンの20年先の話の中で、我々には20年先が見えないと、もういないという者がイニシアティブいわゆる主導権をもってやっていくのではなくて、40代、50代くらいまでの方に20年先のビジョンを描いてもらってそれを実現してもらおうと、努力をしてもらおうということで我々はあくまでオブザーバーだという形をとるのが年齢的な推移からみたら筋だと思う。参加することは、なかなか難しいと思うけれども20年先にこういう年齢になっているのだと、その時に現実的に20年先の世の中を体験するのは30代、40代、50代の方たちが立場になるということを知ってもらうために、我々、自治振興会や自治協議会だけでなく市当局もそういったことに対しても発信もしてもらいたい。こういう時代の流れをもろに背負うのは自分たちだということを、今ここにおられる市役所の方たち</p>

座長	<p>はまだ若い、私たちはもう年齢がいつているので、いわゆる仕事の重大さをそういう方たちに担っていただく。我々はあくまでオブザーバーという形でやっていたら非常に良いのではないかと。市役所の人たちもそういう人たちに對して語りかけていただくということが必要ではないかと思っている。</p> <p>先ほど現役世代という話があったが、現役世代にうまく関わってもらっている地域はあるだろうか。なぜそれを問うかという、どうしても今までの活動というのは現役世代が担うというのは時間的にも労力的にも大変なところがあるが、少し現役世代が関わられるような仕組みというものを一つ二つでも増やしていただくことによって、おそらく関わってくれる方も増えてくると思う。例えば会合の時間帯であったり、会合の回数であったり、現役で働きながらでもうまく両立できるような体制を整えていただくのも一つと考えられるかなと思う。大阪市東淀川区の豊新地域活動協議会の役員は、全て現役世代でされており、事務局長も48歳の現役世代である。連絡はどうしているかといえば、自分の携帯電話を広報などに「ここに連絡ください」と載せて受け答えをされている。そういう現役世代に合わせた自治協議会運営というものを工夫することによって現役世代が出て来られる可能性は高まると思う。</p>
委員	<p>現役世代ということで話があったが、黒井地区は氷上高校がすぐ近くにあつて何かにつけて協力してくれる。今、流行のダンスで5名の女性が週1回会館を利用してきている。改造して大きな姿見の鏡を5つ備え付けている。平成丹波塾がなくなり、自治協議会独自で夏休みに子どもたちに1日遊んでもらおうということで料理教室を企画したところ23名参加してくれた。ダンスの練習をしている高校生にも呼びかけたところ皆さん参加して協力してくれ1日楽しく遊んでくれた。これからも平成丹波塾はないが自治協議会で実施していきたいと考えている。</p>
座長	<p>よいことである。まずは会館を子どもたちに使ってもらって、こちらの活動にも参加してもらおうという話だった。</p>
委員	<p>若者の参加、女性の参加ということで今まで色々な試みをしてきた。その中で女性のグループを作ろうということをやった。続いてはいるが、それが自治協議会の活動の中により影響を受けられるかというところでもなかった。次に枠を作ろうということになり、役員数12名中3名は女性を入れようということで規約を改正し、役員の中に女性を入れるということはどういうことか。それからもう一つですが、ここには女性と若者という枠組みの中での人材育成のあり方が書いてあるが、中心部に近いところなので新規の住宅もたくさんある。そういう人たちに、どのように入っていただくかというのも私たちの地域の中では大きな課題であった。そこを各自治会がうまく取り入れていってくれることによって、自治協議会にもそういう方たちが役の中に入ってきてくれる。現在は12名の理事の中に20代の若者が1人入ってきた。これからだがそういう若い人を通じて色々なことが出来るだろう。先ほどの情報発信の仕方とかそういうことも</p>

座長	<p>出来るのではないかという可能性も考えている。</p> <p>もう1つは、活動の中で子育て世代に部屋を提供しながら集まってもらうことによって、事務局を構えていく関係でそういう方たちとの交流というか顔見知りになれる。こういうことを1つずつ積み重ねていくしかないのかと思っている。こうしなければならないという大きなことではなく、1つ1つの地道な日常の自治協議会の運営の中で積み重ねていくということも大事なことかと思っている。</p> <p>先ほどの話の中で新旧の住民の話があったが、私が色々なところと関わらせていただいている、新旧をうまく混ぜ合わせた方がよい部分と別けておいた方がよい部分があって、そこはちゃんと整理をしておいた方がよいと思う。旧村の場合は色々な行事とか管理とか神社であったり、活動がたくさんある。そういう様々なものを同じように新の住民にお願いするのは、新の住民も大変だと思う。村のことは旧の住民の方でしっかりやっていただいて、もっと大きな小学校区単位でやるようなときは新旧の方が混じり合ってやっていただけるような整理も一方で重要だと思っている。どうしても村の方からするとその辺りが渾然一体となっていて、その延長線上に自治協議会があったりするが、村のことで小学校区全体のことでうまく仕分けをしていただくと自治協議会の役割というのもしっかり見えてくるし、自治会と自治協議会の役割、その辺り見えてくる部分もあるのかと思う。</p>
委員	<p>若い方の比較的参画がないというのは、昔から言われ続けているが、仕事が忙しいからというのは口実だと思う。ただ、行きたくないのだろう。そういう方が多いのではないかと思う。行事や会議によってはどうしても遅くまでということで、とても関わりきれないという方も中にはいらっしゃるだろう。けれども、私は断る口実だと思っている。色々なイベントをやる時にグループとか任意の団体があれだけ集まってくるというのは、自分たちがやりたいことを気持ちよくやれたらたくさん人が集まるということ。先程も人材は必ず地域にいるということだったが、私もそう思っている。そういう場の作り方によっても違うと思うし、ある所では割り振りで各自治会から若い人を何人かずつ出してくださいと、そこから温度が上がっていくことも中にはあるとは思う。ただ、活動している方と運営されている方がいて、運営されている方があまり口出しすると活動されている方にとっては何となく任されていない、自由じゃないという雰囲気にもなってくるし、難しいところだと感じた。</p>
座長	<p>地域の話になるが、餅つきの準備をしている時に若い年代の方がセイロで蒸していた。ちょっと年が上の方が「それ違う」と言われた瞬間に「そんなんやったら、私は、もう手伝いません」となった。任せるなら任せきる方がよいのではないかと思う。</p>
委員	<p>長年、小川で続けてきた石龕寺のもみじ祭りが、今年第30回となり、11月17日に実施するが今回が最後と決まった。ずっと前からだが、実施する上で問題点が出てきて、あまり表には出ていなかったが前回のときに協力しても</p>

	<p>らっている団体などから今年を最後にやめたいと、今年からは出来ないと言われた。小学生の武者行列も多数参加してもらってやっていたが、子どもたちの数も減りほとんど出てくれる子どもが居なくなった現状もあり、なかなか継続するのが難しくなったというのが1つの理由、もう1つがお金の問題だ。基本的には寄付金と補助金で運営していたが、補助金がなくなり、もう一つは地域づくり交付金の3号分を毎年50万円入れて10年間で800万円だがそれも先はどうなるかわからない。また、ここを修理しないといけないとかあり、そういう使い方をしたかったので将来的には難しいと。</p> <p>3つ目の理由として、これが私は一番言いたかったことだが、一番伝わりにくかったことだ。今まで懇話会で議論してきたこと、「やりたい人がやる」というような組織に変えていきたい。ここにも書かれているが、そういう組織になればよいと思っていたが、決してそうではなかった。実行委員会形式はとっているけれども、実行委員会そのものが計画していないのにそこから抜けるとか、もうやりたくないというのがどんどん出てきたので、第30回はやるが、第31回以降はどうするということで検討委員会を作った。検討委員会で決定はしたが、それを実行委員会なので第1回実行委員会の時にはっきりさせて第30回をどうしていくかかという議論に入っている。逆に、今どういうことになっているかという、「よう言ってくれた。やりたくなかったのだ」という声がかこうあった。全部やめると言うのでよかったのだが、一応役員会で色々議論をしながら、そういう結論に至ったプロセスも明らかにした。しかし、「何で、止めるのか」という問い合わせも来ており、そういう方に対しては「今年が最後なのでぜひ協力して盛り上げてほしい」という言い方をしている。結論を言うのは難しいが、30年続いたものをやめるという難しさもあったし、時代とともに組織のあり方や懇話会で議論してきたものも底辺にあるなという認識を強く持っていて「やりたい人がやる」ということの一つのきっかけになればとも思っている。1年後か2年後に期待しているのが若い人の間から「あれもう一回やらへんか」という声があがってきた時にほんまもんというか、ここで議論してきた内容が現実化するのではないかなと思う。クラウドファンディングとか色々な試みをしようと思っていたが今回はやめにした。クラウドファンディングを研究というか調べてみるのもっとうまく出来るのではないか。資金集めで行政に頼らないで自主財源でということも含めて、クラウドファンディングをやっていくのも1つだなと感じた。先ほどフェイスブックの話もあったが、フェイスブックで議論を公開してやりたかったと個人的には思ったが実現しなかった。アナログであるが個人的にはたくさんの方と1対1で話をした。その積み重ねでそういう結論に至ったということだ。今、まとめているので機会があれば報告させていただきたい。</p>
座長	<p>やめる勇気というか、それを持っていただいたということかと思う。また、数年後復活することになるかどうかというのは地域の方々しだいということになるかと思う。他にいかがか。</p>
委員	<p>先ほど会長から愛宕祭りの話があったが、10年前から関西大学の学生20人から30人が8月17日から25日の間、自治会の交流館に泊まり込んで作り</p>

座長	<p>物を作ってくれている。自治会 11 戸プラス関西大学生 10 名の作品を展示することになっていて、それにつながっている。また、地域の空き家対策の方でも学生たちが一緒に入って考えてくれている。もう卒業したが河内長野で活動している方も会議のときは仕事が終わってから来てくれ、9時になったら電車で帰っていく。通いながら地域の空き家対策を考えてくれている。この会はラインで次の会議の日程を知らせるし、議事録も学生が会議の時に打ち込み、そこに載せるので欠席者は次の会議までに議事録を見て内容がわかるし、ガラ携の人にはこちらからつながっている人が連絡をするという形をとっている。他にも愛宕祭りの情報もフェイスブックに上げている。いつも雨が心配だという電話が絶え間なくかかってくるが、今年は雨も少し心配なところもあったのだが「フェイスブックに載せている」というと若い人は「わかりました」と言われる。若い人はそういうものを活用しているのだと思った。今年は問い合わせの電話も少なかったのも、そういう情報発信をするのはよいことだと思った。</p> <p>河内長野市の彼方という地域で、ここも旧集落を中心とした地域である。まちづくり協議会が立ち上がり、ある方が案山子祭りをやりたいという話をされた。安富町でされているが、稲を刈った後、田んぼに案山子を並べて楽しもうとある1人の方がおっしゃった。今年で4年目になるが、こういう楽しいイベントをやると他の地域の中学校がうちも作って並べてもよいですかとか、地域の高校生が私たちも作りたいとか、どんどん広がっていった。特に若い方たちがそうだが、楽しいことというのは見て癒される。そういう楽しいことをきっかけに人材を増やしていくというのも一つかと思う。先ほどの祭りも最初の頃は皆楽しくやっていたと思う。20年経ち30年経つと動員がかかるのも実行委員会からと変わってしまったのかと思うので、ある1定のところで1区切りするというのもそういう意味ではよいことかと思う。</p> <p>それでは4時を過ぎたので最後に私から情報提供をさせていただきたい。</p> <p>八尾市で、本職は養護教員、保健室の先生で今自宅を建て替えておられるが、自分の能力を活かそうということで自宅の1階に「まちの保健室」を作るということで、地域の方がふらっときて健康相談などができるようなスペースを自分の自宅を新築されているところに造っておられる。なぜその話をさせていただいたかという、その方は30代の現役世代ですが、自分がやりたいことをやればどんどん関わってくださるか自分から色んなことをやってくださる。そういう方が増えているので、きっと丹波市にも何人もいらっしゃると思う。そういう方々に自治協議会の活動の一環として、色々なことをやっていただければおそらく現役世代でも、先ほど忙しいのは口実だというのはまさしくそうで忙しくても動きたい方は動いていらっしゃるので、その方々の位置付けだけで結構だと思う。話し合いに参画をしてというところまで時間は取れませんが動く人が動いていることを自治協議会としてうまくバックアップするという形で関わりをやっていただければまた広がっていくのではないかと期待するので参考にしてほしい。</p> <p>それでは時間になったのでよろしいか。</p> <p>次回開催日程について事務局からお願いしたい。</p>
----	--

事務局	<p>6 第9会懇話会開催日程等</p> <p>次回の第9回は、10月1日火曜日午後2時から、山南地域の山南住民センター集会室で開催する。今回は今までご協議いただいた内容についてまとめをさせていただき答申のたたき台、骨子を準備したいと考えているので、よろしく願いいたしたい。</p>
座長	<p>それでは、本日予定した議題は全て終了させていただいた。 最後に職務代理から挨拶をお願いします。</p>
職務代理	<p>委員の皆さんそれぞれご意見を出していただき長時間お疲れ様でした。この自治協議会のあり方、どういう役割でどういう方向性で進んでいるのかということはだんだん見えてきたのではないかと思う。私もこういう議論に加わらせていただく中で、自分が会長という立場の中でどう神楽をこれから動かしていくかとなるとなかなか難しいなど、組織ひとつをとってもその中で、神楽は特に財団法人というしほりがある定款に基づく活動をやっている。そういう中で柔軟な住民参加の運営委員制度とかボランティアを組み込んでいたり、どういうふうに組織したらよいかこの会に出たことによって良い意味で反省をしたり新しい発見もできたと思っている。その中で1点だけ私の思いだが、各町とも自治会長会と自治協議会はほぼ連携がとれている。私のところの自治振興会も7名の自治会長に理事になっていただくことによってうまく連携がとれている。ところが丹波市の自治会長会と丹波市全体の自治協議会の代表者会、このことについて、青垣の場合は、丹波市の自治会長会に出ていただく役員は、青垣の連合会の会長の佐治自治協議会の会長である。佐治以外は各地区の自治会長会の代表が理事で出ていただいている。青垣の場合はこういうことになっていて、他の地区でも自治協議会の代表者と自治会長会の理事がイコールになっていないため、地域の意思決定がスムーズにいかない場合がある。丹波市の自治会長会は総務省の関係で自治会長会を止めるわけにはいかないし、自治協議会は基本条例に基づいてやっている。これも発展させていかなければならない。そういう中でうまく連携、校区内はうまく連携できるが、丹波市の自治会長会と丹波市自治協議会の代表者会がうまく連携できるかといえば難しい。できるなら代表者をイコールにしてもらいたい。そのようなことを今日思った。各委員の皆さま方、各町において、そういうことが出来るかどうかというご意見を次回いただけたらなと思っている。これで会議を終了する。本日は長時間お疲れ様でした。</p> <p>7 閉会</p>